

# 教 育 研 究 業 績

2019年5月1日

氏名 刀 川 啓 一

学位： 修士(教育学)

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
教育学	生活科 総合的な学習の時間 グループ・モデレーション	
主要担当授業科目	生活科指導法 生活	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1) 合同資料の作成	平成元年 ～2年	栃木県教育委員会より研究委員を委嘱され、教育課程の移行措置に伴う生活科完全実施に向けての指導資料を作成し、県内の各小学校の生活科年間指導計画作成資料として活用された。
2) 指導資料の作成	平成2年 ～6年	宇都宮市教育委員会より作成委員を委嘱され、新教科生活科のさまざまな単元の活動例を作成し、各小学校の生活科年間指導計画作成の資料として活用された。
3) I Tを用いた授業実践	平成5年 ～10年 平成14年 ～15年	宇都宮大学教育学部において、I Tを用いた講義を実践し、具体的な生活科の活動についてイメージ化を図った。
4) 授業実践ビデオの作成	平成5年	国立教育研究所教科教育研究部の「小学校における体験的・発展的展開に関するカリキュラム開発の基礎的研究」に生活科2年生の授業実践ビデオを提供した。
5) 動機付けの場面における子どもの変容の作成	平成8年	国立教育研究所教科教育研究部の「小学校における体験的活動の継続的・発展的展開による子どもの変容に関する研究」において研究協力委員として生活科2年生の授業を実践し、子どもの変容の記録を提供した。
6) 生活科指導法の研究	平成28年 ～	本学において、生活科の指導法や学習指導要領解説生活編に示された内容などについての講義を行った。具体的な活動場면을提示したり、互いの考えを交換し合う対話的な学習を取り入れたりすることにより、支援者として必要な知識と技能の習得を図った。
7) 就職支援のための指導	平成28年 ～	本学において小学校教員採用選考試験対策のために、一般教養や教職教養、模擬授業や場面指導、個人面接や集団面接、小論文の書き方などの指導を行った。
2 作成した教科書、教材		
1) 生活科図鑑「新しい生活」べんり図鑑	平成7年	東京書籍の生活科教科書に準拠した活動資料が集約された図鑑を作成した。
2) 生活科教科書「あたらしいせいかつ」	平成15年	東京書籍の教科書作成において生活科第2学年の単元「あしたへジャンプ」を執筆した。
3) 生活科教師用指導書	平成16年	東京書籍の教師用指導書において生活科第1学年の単元「みんなだいすき」を執筆した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価	平成30年	受講学生を対象とした「授業評価アンケート」の16項目に対する授業満足度(5点満点)の回答の平均が4.82点であった。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 県内外の研究団体指導講師	平成元年 ～30年	各都県の教育行政機関や各種研究団体からの幼小の連続発展、生活科並びに総合的な学習の時間に関する指導講話依頼に応じ新学習指導要領の主旨を反映した今後の指導と評価の在り方などを解説した。

2) 教員養成実地指導講師	平成 5 年 ～10 年 平成 14 年 ～15 年	宇都宮大学教育学部の生活科教育法の講義を年間 2 回担当し、生活科の具体的な指導法等について指導した。
3) 放送教育企画検討会議委員	平成 6 年 ・ 9 年	NHK 教育テレビの番組に対し、放送内容や活用法について、教育現場の立場から協議に加わった。
4) 教科指導員	平成 8 年 ～10 年	栃木県鹿沼市内の各小学校からの要請に応じ、生活科指導員として指導法などについて解説した。
5) 宇都宮市立小学校長の経験	平成 21 年 ～26 年	教育実習を行う学生に対し、学校として期待することや子どもの前に立つ教員として遵守すべきこと、教員としての指導力や子どもとの接し方等について指導を行った。
5 その他		特記事項なし

**職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項**

事項	年月日	概要
1 資格, 免許		
1) 小学校教諭専修免許状 2) 中学校教諭専修免許状 (社会) 3) 高等学校教諭専修免許状 (地理歴史)	平成 28 年 3 月 24 日 "	栃木県教育委員会 (平二七小専第 1 4 号) 栃木県教育委員会 (平二七中専第 2 2 号) 栃木県教育委員会 (平二七高専第 2 8 号)
2 特許等 特記事項なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 日本生活科・総合的学習教育学会 栃木支部長	平成 22 年 ～27 年	支部の定例研究会の企画並びに運営を担うとともに、地域世話人として親学会との窓口業務に従事した。
2) 栃木県小学校教育研究会 生活・総合的な学習部会 部会長	平成 23 年 ～26 年	県内の生活科並びに総合的な学習の時間の深化・拡充を図るため研究大会を隔年で開催し、県内の各支部の研究推進業務に従事した。
3) 日本生活科・総合的学習教育学会 常任理事	平成 23 年 ～28 年	学会の会報作成と全国大会での指導に従事。
4) 関東地区小学校生活科・総合的な学習 教育研究協議会 会長	平成 26 年	関東地区大会開催のための企画並びに運営等に会長として従事した。
4 その他		特記事項なし

**研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項**

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1) 生活科の評価読本	共著	平成 5 年 2 月	教育開発研究所	共著：嶋野道弘 刃川啓一 他 53 名 1 章「子どもの、子どものための、子どもによる評価」の章を分担執筆。日常の教育実践において、教師が戸惑う生活科の評価に関して、さまざまな視点から解決の参考となることを網羅した内容となっている。 執筆 pp. 40-46.
2) 生活科授業研究	共著	平成 13 年 6 月	教育出版	共著：奥井智久 刃川啓一 他 18 名 2 章 4 節「ボランティア T T を生かす生活科」の節を分担執筆。大学の生活科教育の講義のガイドとなる標準的な内容・方法を

<p>3)教育技術 1 年生</p> <p>4) 生活科で育まれる資質・能力を明らかにした活動づくり～幼小のつながりを踏まえて～</p> <p>5) 生活科を核とした資質・能力の円滑な接続を目指して～合科的・関連的な指導と中学年の学習をとおして～</p>	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成 23 年 通年</p> <p>平成 29 年</p> <p>平成 30 年</p>	<p>小学館</p> <p>東京教育研究所</p> <p>東京教育研究所</p>	<p>含む具体的な活動の指導内容の基礎を示している。 執筆 pp. 193-198.</p> <p>共著：田村 学 刀川啓一 他 4 名 教員向けの月刊誌。生活科のさまざまな活動例を紹介している。 「なつとあそぼう」「かぞくだいすき」等</p> <p>共著：刀川啓一 他 5 名 新学習指導要領がねらう幼児期の終わりまでに育てたい姿に基づき、生活科の活動を通して子どもにどのような資質・能力が育まれたかについて実践的な研究を行っている。</p> <p>共著：刀川啓一 他 3 名 児童が身に付けた資質・能力を明らかにすることで、新学習指導要領が生活科に求める幼児教育と小学校低学年教育との円滑な接続、並びに中学年以降の学習に連続・発展していけるための方策を実践的な研究を通して明らかにしている。</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1)新任教員の生活科における職能成長の研究</p> <p>(その他)</p> <p>1)個を生かす生活科の環境構成</p> <p>2)児童・生徒の生活科学習の記憶と身に付けた気付きに関する意識調査</p> <p>3) 生活科における気付きに関する評価の研究 ーグループ・モデレーションを用いてー</p> <p>4)生活科における気付きに関する評価の研究 ーベテラン教員によるグループ・モデレーションを用いてー</p>	<p>共著</p> <p>単著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成 26 年 4 月</p> <p>平成 4 年 9 月</p> <p>平成 27 年 6 月</p> <p>平成 28 年 6 月</p> <p>平成 29 年 12 月</p>	<p>日本科学教育学会北関東支部宇都宮大学</p> <p>宇都宮大学</p> <p>日本生活科・総合的学習教育学会 福岡大会</p> <p>日本生活科・総合的学習教育学会 宮城大会</p> <p>日本理科教育学会 千葉大会</p>	<p>共著：久保田善彦 刀川啓一 他 2 名 2 章「研究の方法」5 章「おわりに」を分担執筆。新任教員の生活科の評価力の伸びを明らかにするために、教職 2 年目の教員 1 名の生活科における評価の実際を対象として P A C 分析によって伸びを明らかにしたものの。</p> <p>平成 4 年度前期に宇都宮大学に内地留学した際に研究したもの。教師が意図した環境構成が、子どもの自立に必要な資質や能力を育成することに寄与することを明らかにしたものの。</p> <p>共著：刀川啓一 人見久城 生活科で行った活動や体験の記憶と身に付けた気付きにはどのようなものがあったかについて、小学校 3 年生から高校 3 年生までを対象に意識調査を行い知見を得たものの。</p> <p>共著：刀川啓一 人見久城 生活科の気付きに関する見取りが教師一人ひとりに委ねられていることにより、教師間の見取りの結果が不統一であるという課題に対処するため、グループ・モデレーションを用いながら、妥当性と信頼性のある教師の見取りに資する知見を得たもの。</p> <p>共著：刀川啓一 人見久城 ベテラン教員であっても子どもの活動の見取りに差異があることをプロトコル分析から明らかにし、グループ・モデレーションを用いながら、見取りの差異を埋めるために資する知見を得たもの。</p>

<p>5)生活科の気付きの見取りに関する研究        ー若手教員とベテラン教員によるグループ・モデレーションを通してー</p>	<p>共著</p>	<p>平成 31 年 3 月</p>	<p>東京成徳大学 子ども学部紀要</p>	<p>共著：<u>刃川啓一</u> 人見久城        若手教員とベテラン教員の子どもの活動の見取りの差異や背景を明らかにし、グループ・モデレーションを行うことが適切な見取りに資することの知見を得たもの。</p>
<p>6) 小学校教諭免許取得にかかわる「総合的な学習の時間の指導法」新設上の課題        ー大学生 99 人の意識調査を通してー</p>	<p>単著</p>	<p>平成 31 年 3 月</p>	<p>東京成徳大学 子ども学部紀要</p>	<p>学生の意識調査から「総合的な学習の時間」における課題を明らかにし、指導法の授業において必要となる指導内容に資する知見を得たもの。</p>

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。